

雪解け水で地滑りか

弘前土砂災害 弘大・鄒准教授が見解

弘前大学農学生命科学部の鄒青穎准教授（砂防学）は21日、弘前市悪戸後沢の斜面で16日に発生が確認された土砂災害の原因について、大量の雪解け水で重くなつた地盤が地滑りを起した可能性があるとの見解を示した。

鄒准教授によると、水はけが悪く、過去に土砂災害を起こした斜面は地滑りを起こす可能性が高い。

鄒准教授は17日、発生現場の地質や地形の調査を実施。地滑り発生前、最高気温が10度を超える日が数日続いて雪が急速に解け、斜

面に水が染み込んでいた。

地滑りの影響範囲は幅約60メートル、長さ約230メートル、深さは最大約5メートル。現場の土

砂は水はけが悪い粘土質などが多くた。さらに、20年前にも近くで地滑りが起

こつており、地盤が不安定

だったという。今冬の積雪が多かったことも影響した。鄒准教授は「融雪期に発生する地滑りとしては珍しくない」と語った。

今回の地滑りに関する見解は暫定的なもので、今後さらに調査を重ね、正式な結論を公表する。

（工藤貴光）